

あなたは我々の中におられます

エレミヤ書 14 : 7 - 22



司祭 ヨハネ 井田 泉

2016年10月23日

聖霊降臨後23主日

奈良基督教会にて

今日の旧約聖書日課に、祈りが響いていました。エレミヤ書第 14 章です。

エレミヤ。彼はイエスさまよりもおよそ 600 年前、ユダ王国が滅亡しようとする時期に活動した預言者です。

「エレミヤ」とは、神は持ち上げてくださる、神が確かにしてくださる、の意味だそうです。

エレミヤは一言で言えば悲しみの預言者、涙の預言者です。彼の魂は、その時代の悪と墮落に対してはあまりに繊細でした。しかし神は、そのようなエレミヤを、ご自身の口として選ばれたのです。

彼の時代のユダの王はヨシヤという人でした。ヨシヤ王は国の乱れと混乱は信仰の乱れにあるとして、宗教改革を進めました。エレミヤもそれに共感し、ヨシヤの宗教改革に協力しました。

しかしそうした中で、やがてエレミヤは二つの深い悲しみと失望を味わいます。

一つは、故郷のアナトトの人々から憎まれて、命まで奪われそうになったことです。ヨシヤの改革は礼拝をエルサレムに集中して正常化しようとするものだったので、アナトトの礼拝所は廃止されることになりました。アナトトの人々は、エレミヤを故郷に対する裏切り者とみなしました。

もう一つは、ヨシヤの宗教改革の限界を痛切に感じるようになったことです。形は整えられていく。しかし人間の心は清め

られない。心が清められて神さまに真実に向かうようになるのでなければ、改革事業に何の意味があるでしょうか。

そういう失望と悲しみの中からのうめきが、今日の聖書から聞こえます。

「我々の罪が我々自身を告発しています。主よ、御名にふさわしく行ってください。我々の背信は大きく、あなたに対して罪を犯しました。」 エレミヤ 14:7

これがエレミヤです。彼自身は命の危険に身をさらしてまで、神の言葉を伝えようとしていました。そこには信仰と正義を回復しようとする激しい情熱と厳しい言葉が満ちていました。しかし彼はただ自分が正しいとして民を責めたのではありません。民の罪、人々の罪を自分の罪として感じたのです。神の立場から民に呼びかけ、民を責めるだけではなく、反対に神に逆らってきた人々の側に身を置いて、神に罪を告白するのです。

「我々の罪が我々自身を告発しています。主よ、御名にふさわしく行ってください。我々の背信は大きく、あなたに対して罪を犯しました。」 14:7

「イスラエルの希望、苦難のときの救い主よ。なぜあなたは、この地に身を寄せている人、宿を求める旅人のようになっておられるのか。」 14:8

「なぜあなたは、とまどい、人を救いえない勇士のようになっておられるのか。」 14:9

エレミヤは神を信じています。神を頼りとしています。だから、「イスラエルの希望、苦難のときの救い主よ」と呼びかけます。

しかしその後、神に対して嘆き訴えるのです。

「なぜあなたは、この地に身を寄せている人、宿を求める旅人のようになっておられるのか。」

「なぜあなたは、とまどい、人を救いえない勇士のようになっておられるのか」

まるで神は無力。苦難のときの救い主、力ある神であるはずのあなたは、宿を見出せずに放浪する無力な存在になってしまっておられるではありませんか。なぜ力を現してくださらないのか。

そのように嘆き訴えながら、しかしエレミヤはもう一度、信仰の原点に立ち戻って祈ります。

「主よ、あなたは我々の中におられます。我々は御名によって呼ばれています。我々を見捨てないでください。」 14:9

たとえ沈黙しておられ、無力であるかのように思えても、あなたは、神はわたしたちの中におられる。確かに。確かに。

「主よ、あなたは我々の中におられます。我々は御名によって呼ばれています。」

神の名を呼ぶのが自分たち。主に属するのがわたしたち。主の名によって、主に属する者として周りから呼ばれ、見られて

いるのがわたしたちです。そして沈黙されているように思えても、やはり神は、わたしたちを呼んでおられるはずです。

エレミヤは嘆き、神に苦情を言い、それでも主がわたしたちの中におられることを信じてそれを表明し、そして最後に言います。

「我々を見捨てないでください。」 14:9

彼は、さまざまに祈り、呻き、惑った末に、この祈りに帰って来るのです。

「主よ、我々を見捨てないでください。」

エレミヤの祈りは、神の耳に届きました。神の鼓膜を破るほどの力をもって神に迫りました。神は沈黙を破ってエレミヤに語られます。

「主はこの民についてこう言われる。『彼らはさまようことを好み、足を慎もうとしない。』」 14:10

エレミヤは神に対して、あなたは「宿を求める旅人のようになっておられる」、さまよう旅人のようになっておられると言いました。

これに対して神は、さまよっているのは彼ら、わたしの民だ、と言われたのです。

「彼らはさまようことを好み、足を慎もうとしない。」

さまよってわたしのところには来ようとせず、勝手に歩き回って国と弱い人々を踏み荒らす。

今日は日課の最後の言葉を聞いて締めくくります。

「我々はあなたを待ち望みます。あなたこそ、すべてを成し遂げる方です。」 14:22

ここでもエレミヤは「わたし」と言わず「我々」と言います。

神に逆らっている多くの人々の現実を知りつつも、その人々を引き寄せるように、包み込むようにして、「我々はあなたを待ち望みます」と祈ります。

「あなたこそ、すべてを成し遂げる方です。」

人間的希望がなくなったとき、しかしそれで終わりではありません。そのときこそ、その今こそ、神に希望を抱き、一切を成し遂げてくださる神を信じ、神にすべてを賭けるのです。

エレミヤは、2600年の遠くからわたしたちを励まします。そしてわたしたちの救い主イエスは、十字架の上で「成し遂げられた」（ヨハネ 19:30）と言って、わたしたちを励ましてください。

祈りましょう。

主よ、あなたはわたしたちの中におられます。わたしたちを見捨てないでください。わたしたちを悲しみと失望の中に放置しないでください。すべてを成し遂げてくださるあなたに希望

を抱きます。アーメン